

**宮私幼PTAだより**

第73号

発行者 宮私幼PTA連合会  
 編集者 石垣由理  
 発行所 東岡幼稚園  
 事務局 仙台市青葉区国分町三丁目6-12 佐正第二ビル6F  
 電話 (022) 263-7040



会長 渥美 巖

子供達に正しい生活習慣を身につけさせよう

平成二十年度全国学力調査及び体力調査の結果が、発表されました。宮城県(公立)小学校の順位は、全国四十七都道府県中三十四位、中学校は二十九位と残念な結果になっています。同じ東北でも秋田県が一位、青森県三位、岩手県が十位という中で、宮城県の学力低下が気にかかります。

一方、体力調査においても、宮城県は小学六年男子は三十六位、女子では三十一位に対し、秋田県は男子・女子共に二位に位置しており、秋田教育委員会では『学力と体力は関係ある。学力も体力も朝食をきちんと食べるといった生活習慣があつてこそ』と話しております。宮城県内児童の朝食をとる習慣調査では、毎日必ず朝食をとらないが、一割以上いるという結果になっておりますので、『はやね・早起き・朝ごはん』という、正しい生活習慣を身に付けることが大事であると考えております。私達PTA連合会は、①すべて

の子供の為に、良い環境をつくる。②良い親・良い教師となる為の研修を深めよう。③保護者の負担軽減の為、更に努力しよう。の三つの目標を掲げて活動しており『子育てしやすい社会環境づくりと子育て支援策の更なる充実』を求め去る、一月十三日村井知事に対し『平成二十一年度私立幼稚園に対する補助金に関する陳情』を行つております。特に全国ワースト四位となつている私立幼稚園に対する運営費補助金の増額に対して、村井知事からは、厳しい県財政であるが、前年度の補助単価を上回りたい。との力強い回答を得たことをご報告しておきます。

昨年後半から急に景気が後退し県内企業の雇用が不安定になつていくこと、進出予定の企業が計画どおり宮城に立地してくるかが心配です。明るい元氣な子供達の声が園庭に響くように、皆様と共に頑張つて参りますので、更なるご協力をお願い致します。

全日本私立幼稚園PTA連合会  
全国大会に参加して



石垣 由理  
東岡幼稚園(P)  
去る十一月十九日、東京・グランドプリンスホテル赤坂において全日本私立幼稚園PTA連合会の第二十三回PTA全国大会が開催されました。

「次代(あす)を担う子どものために」家族の絆に心ゆたかな子どもを大会テーマに全国各地から保護者代表、幼稚園関係者など約一千百人が集い、宮城県からはPTA役員・宮私幼役員の計十四名で参加いたしました。

大会式典では、森喜郎全日本私立幼稚園PTA連合会会長、吉田敬岳全日本私立幼稚園連合会会長の挨拶があり、麻生太郎内閣総理大臣、塩谷立文部科学大臣、河村建夫内閣官房長官をはじめとする議員の方より祝辞を頂きました。

大会宣言では、後藤明美全日本私立P連合会副会長が宣言案を読み上げ、宣言文が採択されました。大会式典の記念講演として「親の品格・家庭の品格」をテーマに昭和女子大学学長の坂東眞理子さんによる講演が行なわれました。

通常ならここで大会は終了なのですが、今年には森会長の粋なほからいとも言いましようか、麻生総理が会場にいらつしやるという

サプライズがありました。この時の参加者の盛り上がり方はアイドル並みで、森会長と麻生総理の写真を撮ろうと大騒ぎで、もちろん私もその中の一人でした。後にテレビでこの時の総理が、また失言という形で報道されておりましたが、多くの参加者はきつと、とても良い話をして頂いたと感じたのではないのでしょうか?ここに一番印象に残っている話をご紹介しますと思います。

「自分(麻生総理)が子育ての話をする時に、必ず思い出すのが、マザーテレサの言葉です。マザー



幼稚園生活においても、自分は望まれてこの世に生を受けたのだと感じ、世の中に深い愛情がある事を教える子育てをして下さい。決して無関心にはならないで下さい。」という言葉に私はとても感銘を受けました。子育ての基本は愛である事は親なら誰でも知っている事でありながら、一番難しい事で、私自身、子供に対して無関心にならないように楽しみながら子育てをしていきたいと思つています。

最後に今年度の宮私幼の役員として貴重な体験ができた事、とても嬉しく思つております。役員と聞くと大変!と思われがちですが、このような素晴らしい体験もできますので、是非楽しんで参加してみます事をおすすめいたします。本当にありがとうございました。

おしらせ

- 平成21年度総会  
期日 6月2日(火)  
会場 仙台市民会館小ホール
- 平成21年度  
宮城県私立幼稚園教育振興大会  
ならびに  
第37回宮私幼PTA研修大会  
期日 6月24日(水)  
会場 東京エレクトロンホール  
宮城大ホール(県民会館)

# 地区活動報告

## 平成二十年度登米地区研修会 「親子ミニ運動会」

登米幼稚園 (P)

野村 美加

昨年八月三十日、登米市登米総合体育館(蔵ジウム)において、宮城県私立幼稚園PTA連合会登米地区親睦研修会が開催されました。真夏の日差しが照りつける中、三つの幼稚園から親子一五六名にご参加頂きました。

昨今、共働きの家庭が増え、子供と一緒に過ごす時間が限られている。忙しさのあまり、子供達の相手をおもちゃやゲーム、DVD等に任せがちになったり：このような状況の中、子供と一緒に体を動かし、共に汗をかき、同年代の子を持つ親同士も親睦を図れたらどんなに良いか：そんな思いから今回の研修会は、「親子ミニ運動会」を企画いたしました。

各幼稚園ごとに整列し、開会式、ルール説明、準備運動と続き、この時点から日頃運動不足なのか、「痛い：」と言う保護者の声に子供達は、「全然痛くないよ」と誇らしげです。園対抗で順位別に賞状及び参加賞と、豪華賞品？が授与されます。

いよいよ、競技開始です。プログラムNo.1、親子二人三脚。親子の足首を手拭いでしぼり、1/4週ずつを八組でリズムをあわせて

走る競技です。三才から六才児までのさまざまな園児と保護者が一組となり、スタートしました。もちろん早いのは年長クラスの組で、お父さん、お母さんと息びつたりです。それに負けじと年少クラスの組のお母さん。思わず我が子を抱きかかえ、少しでも差を縮めようと頑張るお母さん。靴がぬげてしまい、追い越される子。応援席からは、園乱れての大歓声。



プログラムNo.2、園対抗の綱引き。一チーム二十名の保護者(父五名、母十五名)による一試合三本勝負の各園総当たり戦。二十名の保護者が綱をはさんで交互に並び、一番後ろの人は腰にぐるりと一巻。やる気マンマンです。合図と共に綱の引っぱり合いです。「お父さん頑張れ!」「お母さん頑張れ!」子供達の大応援。

プログラムNo.3、園児による玉入れ。各園一チーム二十名の三十分二回勝負。我が子のシャッターチャンスを狙い、デジカメやビデオカメラを片手に大声援。

プログラムNo.4、保護者によるリレー。そして最後に、マイムマイムのダンスです。保護者から「懐かしい」と言う声も聞こえました。親子で共に汗をかき、親子で手をつなぎ、そして参加者全員で手をつなぎ、体育館に大きな「和」ができました。

忙しい日常生活を離れ、親子で触れ合い、コミュニケーションが取れた貴重な一日だったことでしょうか。

最後に、会を開催するにあたりご尽力頂いた皆様に、この場をお借りして深く感謝と御礼を申し上げます。

平成二十年度  
名取・岩沼・山元地区研修会

「子どもと自然  
〜折り紙を通して〜」

尚綱幼稚園 (P)

尾形 理恵

昨年十一月十二日、名取市文化会館において、宮城県私立幼稚園PTA連合会名取・岩沼・山元地区研修会が開催されました。銀杏並木が美しく色づくなか、多数の皆様にご参加いただきました。



子どもと自然」をテーマに、尚綱学院大学名誉教授の木村中外先生にご講演いただき、知識と教養を高めると共に、中外先生のご趣味でもある折り紙を通して、各園の保護者同士の交流を深めることを目的に企画しました。中外先生の専門は植物学ですが、趣味も多彩で幼稚園園長を歴任されていたこともあり、子育てへのヒントがたくさん詰まった研修会となりました。

子どもが自然と関わるのが少なくなると感じられる現代で、「子ども達にとっては落ち葉一枚どんぐり一個が大きな自然の入口であり、そう感じる心こそが、自然をつかむ手になる。」というお話を、参加者の皆さんも大きくうなづいていました。子どもが興味を持った小さなことにも、「何だろうね。」「そうだね。」と共感することで、子どもの世界は大きく広がり、自然をつかむ手も心もどんどん成長していくのだと思えました。お話を聴いた全ての人の心が、ほんわりとあたたかくなるようなご講演でした。

続いての折り紙活動は、各園との交流を図るため、他園の参加者同士がグループとなり、お互いに会話を通してコミュニケーションをしてもらうスタイルでした。また、作品も説明通りに折っていくのではなく、完成品を解体しながら折り目をたどり、グループ内で協力して再度折りあげていく、という方法で作っていただきました。最初は初めて会った方同士、戸惑いも見られましたが、あつという間に打ちとけて、会場全体が活気あふれる楽しい雰囲気になっていきました。真剣に折り紙に取り組んでいるグループ、日常の子育てについて情報交換しているグループ。楽しい時間はいつの間にか過ぎ、参加者の皆さんからはもつと時間があつたらという感想をいただきました。それでも、全てのグループが作品を完成させることができ、折り紙のもつ魅力を再発見された方も多かったようです。

今回の研修会を通して、各園の保護者の皆様と笑顔で交流することができ、本当に嬉しく思っております。

また、この日のために、ご尽力いただいた役員及び会員の皆様、心あたたまるご講演と折り紙のご指導をいただいた中外先生に、心より感謝を申し上げます。

### 「第三十四回親善バレーボール大会」に参加して

汐見台幼稚園 (P)

長谷川 幸



昨年の十月九日、第三十四回親善バレーボール大会が利府町のホットハウスアリーナを会場とし盛大に開催されました。

試合が始まると「チャンス!!」「いけー!!」「さあ、もう一本」などのかけ声が飛び、ひとつのボールを追いかけるお母さん達のは真剣です。そんな熱気とは対照的に会場では無邪気に遊ぶ子供達、赤ちゃんをあやすお母さんの姿もあり幼稚園バレーらしい光景も見られました。また、応援にきた園児達のカワイイ声援も聞こえお母さん達はいつも以上に頑張れたのではないのでしょうか。

大会の結果は様々だったと思いますが、幼稚園バレーは勝つことだけがすべてではないと思います。私も幼稚園でバレーボールをして

いますが、年齢も経験も様々な人達が集まりお互いを理解し助け合いながらプレーを楽しむ。それが幼稚園バレーの醍醐味だと私は思っています。

そして、私達が思う存分バレーボールを楽しむ練習や大会に集中できるのも子供達を安心して預けられる幼稚園、家族の協力があるからです。これからもご協力宜しくお願いします。

最後に、バレーボール大会を開催するにあたりご尽力頂きました皆様にご場をお借りして感謝申し上げます。

### 第三十四回親善バレーボール大会

入賞チーム

ブロック	優勝チーム	準優勝チーム
A	やまびこ	ナザレト
B	利府おおぞら	ゆりかこ
C	八幡花園	愛子
D	しらとり	福聚
E	大野田	鷹乃杜
F	成田中央	みやぎ

ソフトバレー優勝 岩沼南こぼと



### 初めての「クライマックスシリーズ」

汐見台幼稚園 (T)

渡辺すみ子

昨年十一月十二日、グラウンデー21サブアリーナに於きまして宮私幼PTA親善バレーボール大会、クライマックスシリーズが開催されました。これは十月に行われた大会でのブロック優勝した六チームが試合をして一位を決定する大会で今年度が初めての試みという事です。

当日は流石、優勝チーム同士だけあって、ファイト満々、これがお母さん達かと驚くばかりの滝激さ、高校生か実業団の大会のようでも見ごたえがありました。

観客が少なく、各園の応援団も少数で、もつと多くの方々に観て戴きたかったと思いました。

審判の方々もママさんバレーの年期的に入った実績のある方ばかり毎年お願いしてお世話になっているとのこと、心強い限りでした。

はからずも、今年度PTAの役割として何年ぶりかで係わりました大会でしたが、大へん感動いたしました。

最後に申し上げたいことは、このチームの方々から又、高額な参加費を戴くということはとてもお気の毒で、せめて半額位にならないかと感じました次第です。



お知らせ  
第35回親善バレーボール大会  
期日 平成21年10月22日(木)  
会場 宮城県総合体育館  
(ホットハウスアリーナ利府町)

### 6強の戦績

- ① 利府おおぞら 15-12 やまびこ
- ② しらとり 14-15 成田中央
- ③ 八幡花園 12-15 大野田
- ④ やまびこ 7-15 しらとり
- ⑤ 成田中央 13-15 八幡花園
- ⑥ 大野田 13-15 利府おおぞら

決勝戦の二チームは次のようにきまりました。  
利府おおぞら幼稚園対しらとり幼稚園  
⑥ 決勝戦  
しらとり 15-9 利府おおぞら  
15-7  
クライマックスシリーズの優勝チームはしらとり幼稚園と決定する。

### 知事陳情報告

副会長 稲富 将夫

本年一月十三日、県庁の会議室に於いて、村井嘉浩知事に対しまして、陳情を行いました。宮私幼連合会より村山理事長外執行部七名、宮私幼振興対策協議会より三塚百合子会長、PTA連合会より、渥美巖会長、中島源陽副会長、横澤行夫副会長、長谷川幸副会長、寺澤正志常任委員長、高橋尚美常



任委員、石垣由理委員と稲富と八名県私学文書課より課長はじめ三名の立会のもと、村井知事に平成二十一年度の予算に関わる私立幼稚園への補助金増額等の要望書を提出しました。母親代表で出席した長谷川副会長、外二人の母親の話に熱心に耳を傾け、幼児教育の重要性を鑑み、前向きに期待に沿うよう努力していきたい旨のお話をいただきました。

# 会員の広場

## 「努力」

いわでやま幼稚園(P)

丸森 裕樹



突然ですが、子供達に「パパ、すこい」

「ママ、すこい」と言われた事があると思います。私も、娘二人に言われた事があります。私は逆立ちをしたり、サッカーをしたりします。その時に、「パパ、すこい」と、娘達が言います。料理が出来たのを見て、「ママ、すこい」と言います。その時、私は、「パパもママも、一生懸命、努力したんだよ」と、言います。みんな、初めは出来ずに、努力を重ねて、出来るようになると思います。娘も、最初は「出来ない」と言っていて、すぐに投げ出します。でも、娘に一から教える時、娘は一生懸命、努力して出来るようになります。どんな事があっても努力をすれば、必ず、出来るという事を娘が少しずつ、分かるようになってきました。これからも、努力の大切さを、娘に教えていきたいと思います。

## 毎日続ける

日和幼稚園(P)

梅木 正志



先日、ある本を読んでいた思い出したことがあった。

それは、数年前の元日、現在中学生になる長女に「今年は一日も休まないで毎日勉強できるかな」と言ったところ、「え、毎日」と、当然の反応をしたが、続いて「やってみる」と答えた。長女が毎日勉強するのであれば、私もそれに付き合わなければならない。さて、これは大変なことを言ってしまったと後悔をした。

結果、その年の大晦日に「お前は偉い」と長女をほめるしかなかった。高熱を出して寝込んだとき意外は、旅行に行っても、疲れていても本当に毎日続けたのであった。長女の目標は達成した満足げな顔をみていて私自身も、とても嬉しかったことが思い出された。

「毎日続ける」という目標を決めることが重要で、それを継続するために努力することがとても大切なことだ。とこのときは改めて長女に教わった。

長女も私もこの時の達成感を最近忘れていたような気がする。幼稚園に通っている長男と姉二人にこの出来事を話す機会が近々ありそうな気がする。

## 子供達に励まされて

もみじが丘幼稚園(P)

郷古 直子



ひよんな事から保護者会長になり、あまりの重責に

しばらくの間頭は真っ白、子供を園に迎えに行っても地に足が付いていないような感じでした。私には子供が一人で、何も経験が無くとにかく不安でいっぱいでした。そんな私も先生方のご理解と、経験豊富な役員さんのサポート、保護者皆様の沢山の御協力のお陰で、間もなく任期を終えようとしています。

戸惑っていても季節毎にやってくる数々の園行事。急に人前で挨拶をする機会が増え、自分の子以外のお世話をすることも行事の中で沢山あります。始めは「他の子だから...」と遠慮しきこちない接し方だった私。一つ一つ季節と共に行事が過ぎていくと、子供達の方が名前を覚えてくれて、挨拶は勿論ですが、頼りない私を頼っていた時は本当に嬉しかったです。又、小さい女の子に「先生!」と呼ばれた時は恥ずかしかったけど、貴重な体験でした。

今ではどの子もみんな心から愛しく感じますし、子供達の楽しそうな姿、笑顔で言われるお礼の言葉、全てが私にとって宝物です。私の方こそ有難うございました。

## 一粒で二度おいしい年

双葉幼稚園(P)

石橋 智恵



上の子の時は、幼稚園初心者でしたし、下の子がいた

ので、役員選出時どこか他人事でした。一昨年、下の子も続けて入園し、昨年の改選時、最後に一度くらいは、と軽い気持ちで引き受けてしまった役員。初めは、右も左もわからず、戸惑うことばかりでした。それでも「子供達の笑顔のために自分も楽しんでやろう」と切り替えました。そこから、行事の度に、いくつものキラキラと輝く子供達の目を見ることができ、同時に参加できた喜びや充実感を得ることができました。

クラスの垣根を越えて新しい友達を作ることもでき、さらに、当番園だったこともあって、他園の方とも話をし、視野を広げることもできました。

今振り返ると、子供達の成長をごく間近で見ることができ、また私自身も成長した一年だったと思います。幼稚園最後の年は、母と子とで「一粒で二度おいしい年」となりました。

これまでご協力頂きました保護者の皆様に心より御礼申し上げます。一年間、ありがとうございました。

## あとがき

冬の長かった陸奥にも、春の足音が聞かれるようになりました。小学校への入学に胸をふくらませる年長さん達の輝くような眼、進級の喜びをかみしめながらお兄さんお姉さんに負けないよとがんばる年中、少さん。いよいよそれぞれが春の準備にいそしむところです。

おかげさまで、「宮私幼PTAだより」第七十三号をお届けすることになりました。本号にご寄稿いただきました皆様様に深く感謝を申し上げます。

どこからか「ひなまつり」の歌が聞こえてきます。  
「あかりをつけましょぼんぼりに  
お花をあげましょ 桃の花...」  
ありがとうございます。  
お礼を申しあげてあとがきいたします。

## 編集委員

- 副会長 稲富 将夫(実名なき)
- 事務局長 横澤 行夫(お人形社T)
- 事務局次長 小野 暢彦(清水T)
- 部長 高野 榮(しらとりT)
- 副部長 藤田 和枝(葦の芽谷T)
- 部員 石垣 由理(東岡P)
- 部員 熊谷 昭(葦の芽P)
- 部員 野村 美加(登米P)
- 部員 小久保達之佑(登米T)
- 部員 高橋真由美(よしのP)
- 部員 梅木 正志(日和P)

